

## 7. 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

○令和元年10月台風19号豪雨水害では信濃川水系の千曲川上流域から信濃川中流域の広域にわたって甚大な被害が発生したことから、流域内の関係者が連携して河川整備によるハード対策と地域連携によるソフト対策を一体的かつ緊急的に進めるため、本会議を開催して「緊急治水対策プロジェクト」をとりまとめます。

## 【千曲川】

会議名：信濃川水系緊急治水対策会議（千曲川）

- 開催日時 令和元年11月29日（金） 15:45～16:45
- 開催場所 長野県庁 講堂
- 議事（目的、被害状況、緊急治水対策プロジェクト、意見交換）
- 参加者
  - ・流域市町村（41市町村）
  - ・長野県（知事、建設部、各建設事務所）
  - ・国土交通省北陸地方整備局（河川部、千曲川河川事務所）



長野県知事



北陸地整 河川部長



長野市長



千曲市長

## 【信濃川中流】

会議名：信濃川水系緊急治水対策会議（信濃川中流）

- 開催日時 令和元年12月6日（金） 10:00～11:00
- 開催場所 長岡市消防本部 研修室
- 議事（目的、被害状況、緊急治水対策プロジェクト、意見交換）
- 参加者
  - ・流域市町村（7市町村）
  - ・新潟県（土木部、各地域振興局）
  - ・国土交通省北陸地方整備局（河川部、信濃川河川事務所）



北陸地整 信濃川河川事務所長



新潟県 河川管理課長



長岡市長



小千谷市長

○令和元年10月台風第19号において甚大な被害が発生した、信濃川水系における今後の治水対策を関係機関が連携し、「**信濃川水系緊急治水対策プロジェクト**」を取りまとめました。

○関係機関が連携し、以下の3つの取組を実施し、概ね5年間で「再度災害防止・軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

### <主な取組メニュー>

- 被災施設等の迅速な復旧
  - ・堤防、護岸、排水機場等の被災施設の復旧
- 河川水位を低下及び洪水流下断面を向上させるための取組
  - ・遊水地等の洪水調整施設の整備
  - ・堤防整備、河道掘削による洪水流下断面の拡大
- 施設規模を上回る洪水に対する取組
  - ・危機管理型ハード対策
- 既存施設を活用した洪水被害軽減対策の取組
  - ・堤防の強化
  - ・霞堤等の遊水機能の保全
  - ・既存施設の活用検討、既存ダム等の洪水調節機能の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、  
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における  
浸水被害状況

・堤防等の適切な維持管理

## ①被害の軽減に向けた治水対策の推進 (河川における対策)

■ 信濃川水系では、これまでの観測史上最高水位を更新する大きな洪水が発生し、堤防の決壊、越水が複数発生するなど、現況施設能力を超える事象や河岸侵食による被害が発生。

→被害の軽減に向けた治水対策を加速化し推進を図る。

### <主な取組メニュー>

- 流出抑制の取組
  - ・ため池等の既存施設の補強や有効活用
  - ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
  - ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設の整備
- 支川の氾濫抑制、内水被害を軽減する取組
  - ・支川水路における氾濫抑制等
  - ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- 大規模災害時における迅速な復旧支援の取組
  - ・防災拠点等の整備



長野県千曲市内における  
浸水被害状況



新潟県長岡市内における  
浸水被害状況

## ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進 (流域における対策)

■ 千曲川流域は、周囲を山々に囲まれた急峻な地形のため流出が速く、複数の盆地と山あいの狭窄区間を交互に流下する地形特性から、外水や内水による氾濫被害が発生。

■ 信濃川中流域では、上流の隣接県の洪水の影響も受ける地形特性や大河津分水路に頼る洪水処理により益々下流のリスク増大が懸念される。

→地域及び関係機関が連携して浸水被害の軽減対策について検討し、取組を進める。

### <主な取組メニュー>

- 住まい方の工夫に関する取組
  - ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
  - ・高床式住まいの推進
- 防災教育や防災知識の普及に関する取組
  - ・マイ・タイムラインの普及
- 災害危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組
  - ・公共交通機関との洪水情報の共有
  - ・住民への情報伝達手段の強化



マイ・タイムライン講習会の様子



## ③減災に向けた更なる取組の推進 (まちづくり、ソフト施策)

■ 千曲川では、堤防からの越水や決壊、支川の氾濫などによる様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難なところも見受けられた。

■ 信濃川中流では、降雨中又は降雨が収まった後、長い時間をかけて到達する洪水や支川の氾濫など様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難なところも見受けられた。

→洪水特性を踏まえた、きめ細やかな情報提供等を関係機関が連携し実施する事により、「減災」の取組を推進する。

# 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

1/31公表

○令和元年10月台風第19号により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめました。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、概ね5年間で「再度災害防止・軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

## ■河川における対策

全体事業費 約1,227億円(国事業)  
 災害復旧 約 214億円  
 改良復旧 約1,013億円  
 事業期間 令和元年度～令和9年度  
 目標 【令和6年度まで】  
 台風第19号洪水における  
 ・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止  
 ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

【令和9年度まで】  
 台風第19号洪水における  
 ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止

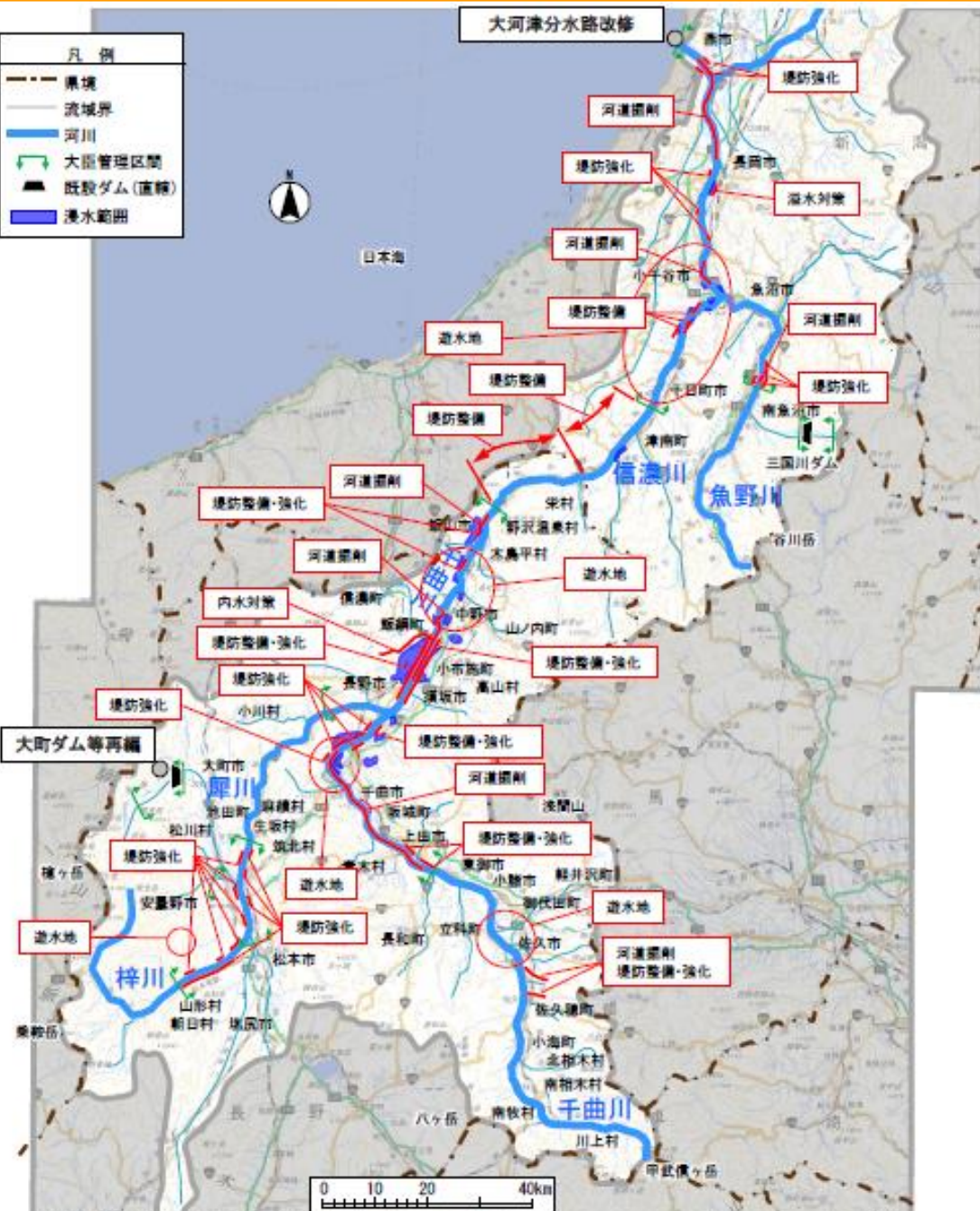
対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

## ■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等の整備

## ■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化



※本対策箇所は主要箇所のみ記載しています。  
 ※大河津分水路改修と大町ダム等再編事業は、プロジェクトと並行して継続実施する。  
 ※本プロジェクトは、短期的(概ね5～10年)の達成目標であり、プロジェクト終了後も継続し、中・長期的に対策を講じる。



長野市穂保地先の堤防決壊、  
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における  
浸水被害状況

※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

# 参考例

## 防災教育や防災知識の普及に関する取組（マイ・タイムラインの普及）

○防災教育や防災知識の普及に関する取組として、地域住民と協働でマイ防災マップ、マイ・タイムライン普及の推進等により、地域防災力の向上を図ります。

### 今後の対策の方向性と内容

#### 千曲川



<マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」>

#### 信濃川中流



▲マイ・タイムライン作成状況

※具体的な対策内容等については、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

**参考例** 防災教育や防災知識の普及に関する取組（地域住民や小・中学校生等を対象にした防災教育の推進）

○防災教育や防災知識の普及に関する取組として、各地の教育委員会・学校等と連携し、地域住民や小・中学校生等を対象にした防災教育の推進等により、地域防災力の向上を図ります。

今後の対策の方向性と内容

地域住民や小中学生等を対象にした防災教育の普及を推進します。



▲ 小学校における出前講座(防災教育)

## 参考例 防災教育や防災知識の普及に関する取組（タイムラインの普及促進等）

○防災教育や防災知識の普及に関する取組として、タイムラインの普及促進等により、地域防災力の向上を図ります。

### 今後の対策の方向性と内容



▲ 検討会の様子



▲ 各対策部との連携を確認



▲ 行動項目を抽出



▲ 各対策部からの報告

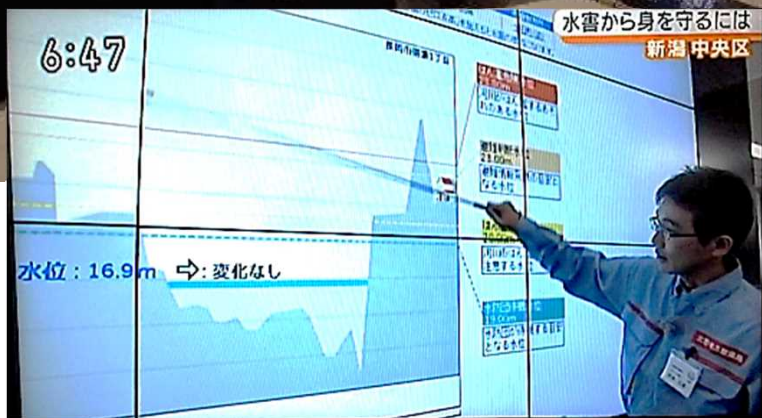
○また、策定後は実際の災害時や訓練等に活用し、見直しを図り、充実させていきます。

**参考例** 災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組（報道機関と連携した情報発信の強化）

○災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組として、報道機関と連携した情報発信の強化を行っていきます。

今後の対策の方向性と内容

国土交通省の取り組み事例



▲ 北陸地方整備局における河川情報解説



▲ 北陸地方整備局と気象台との共同会見



**参考例** 災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組（洪水が遅れて到達する水系の情報発信の強化）

○雨が止んだ後に上流からの洪水が到達した状況を踏まえ、災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組として、洪水が遅れて到達する水系の情報発信の強化を行っていきます。

今後の対策の方向性と内容

令和元年10月台風第19号における千曲川から信濃川中流への洪水到達時間(最高水位時刻の状況)



洪水到達時間

水位観測所

約1時間	生田(長野県上田市) 最高水位時刻(10/12 21時頃)
約5時間	杭瀬下(長野県千曲市) 最高水位時刻(10/12 22時頃)
約7時間	立ヶ花(長野県中野市) 最高水位時刻(10/13 3時頃)
約2時間	小千谷(新潟県小千谷市) 最高水位時刻(10/13 10時頃)
約4時間	長岡(新潟県長岡市) 最高水位時刻(10/13 12時頃)
	大河津(新潟県燕市) 最高水位時刻(10/13 16時頃)



※具体的な対策内容等については、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

**参考例** 災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組（水位計、監視カメラ等によるリアルタイム情報の発信）

○災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組として、水位計及び河川監視カメラ等の整備によるリアルタイム情報の発信を行っていきます。

今後の対策の方向性と内容



河川監視カメラによる画像

危機管理型水位計による水位データ

